ninoyu satoshi

発行所：みんなで政治を考える会
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ケイハンシティビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310

発行人：二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館632号室
TEL.03-3508-8632 FAX.03-5512-2632

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。　題字：栢木寛照

えとす

年間購読料 1,200円(一部100円)
第3種郵便物認可 平成2年1月18日
口 座 01000-4-62360

平成17年 No.175 12月号

京都の智恵を日本に活かす。

二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

中川泰宏氏、自民党京都府連に復帰

府連幹部会で了承

9月11日に行われた総選挙では、京都4区で前職の田中英夫氏が郵政民営化関連法案で反対票を投じたために、党公認を得られず無所属での出馬となった。党本部は府連の頭越しにJA京都中央会会長・前八木町長の中川泰宏氏を公認候補と決定した。無所属の田中氏、公認候補の中川氏の扱いに苦慮した自民党京都府連では、4区内の府・市会議員の選挙応援については、各議員の自主的な判断にまかせることにして「自主投票」の方針で対処した。

選挙の結果は、中川氏が僅か156票の差で、田中氏を押さえ当選を果した。しかし、僅少差での敗北、そして4年前の知事選挙での中川氏の反党的出馬に対して、4区内の府・市会議員にはいまだに釈然としない気持ちが残ったままになっているのが実情である。

自民党府連では、中川氏の自民党京都府連への復党について協議するため11月26日に二ノ湯副会長、清水幹事長も加わって党紀委員会を開催した。党紀委員会では、色々な意見があったが、中川氏を復党させることで合意、12月3日の幹部会、常任総務合同会議で了承された。

二面に関連記事掲載

小林弘明氏を幹事長に選任

自民党京都府連

9月に実施された総選挙で府会議員の清水鴻一郎幹事長が立候補し、当選したために、自民党京都府連では、後任の幹事長候補を府会議員団を中心に選考を進めていた。府会議員団では、議長経験者の中から小林弘明氏(右京区選出)を幹事長候補として推薦、12月3日に開かれた幹部会・常任総務合同会議で了承された。

小林氏は、早大卒、東京で公立の高校教員を務めた後、京都に帰り、故前尾繁三郎衆議院議員の秘書となり、昭和49年の知事選挙と同時に行われた府議会議員の補欠選挙に右京区から出馬し、初陣を飾った。府議会では、文教常任委員長、監査委員、そして平成7年には府議会議長を務めた。自民党では、広報委員長、政調会長を歴任した政策通のベテラン議員である。二ノ湯参議院議員とは前尾事務所で約2年間机を並べて前尾先生の政治活動を支えた。

就任後の記者会見で、小林幹事長は「知事選挙については府会各会派の意向を聞きながら、山田知事の再選にむけて取り組んでいきたい」と語った。なお、小林幹事長の任期は再来年の7月までとなっている。

記者会見で抱負を語る小林幹事長(右)、写真左は二ノ湯参議院議員

府連党紀委員会 中川氏を招き事情聴取

9月11日の総選挙で当選した中川泰宏氏の京都府連への復帰の可否を審査する党紀委員会が11月26日に開かれ、中川氏本人から事情聴取を行なった。

中川議員は自民党公認候補として当選しているが、4区はもとより、府連組織内で中川氏を府連に復帰させる雰囲気になっていなかった。しかし、中川氏が自民党公認候補として当選したことは、厳粛な事実であり、いつまでも中川氏と府連との関係を不正常なままにしておくことは適切でない。しかも11月21日付で党本部は中川氏を京都府第4選挙区支部長に選任しており、中川氏の扱いについて早急に解決をはかる必要があった。

委員からは、平成14年の知事選挙にあえて立候補した時の心境、知事の有力な支援団体である農業団体のトップを務めていた中川氏の立候補によって共産党を利するのではないかと各方面で心配されたが、そのことについてどう思っているか、今回の衆議院選挙の公認問題の経緯の中で4年前の知事選挙のことを中川氏から党本部に話されたかどうか、前回の知事選挙以来、中川氏が支部長を務めていた農業団体では党員が全員離党し現在幽霊支部となっているが、このことについてどう思うか、さらに中川氏が自民党に復帰すれば党員をやめたい、自民党を応援したくないという人が女性党員の中に多いが、そのことについてどう反省するかなど、かなり厳しい意見が出された。

それらの質問に対して中川氏は、知事選挙は信念に基づくものであったが、その結果自民党をはじめ知事選挙にかかわった人々に迷惑をかけたことは申し訳ない、府連の組織内に入れていただければ、京都府連の国会議員として精一杯国民、府民のために汗をかきたい。今後は時間を要すると思うが、4区内の各級議員はもとより関係者の皆さんと出来る限り多くの話し合いの場を持って「強面(こわもて)で通してきた中川のイメージチェンジ」をはかり、地域の皆さんとの融和に努めたいと語った。

中川氏は終始穏やかな口調であり、一日も早く府連に復帰して、自民党の中にあって自分の信念を貫いていきたいとの決意を表明した。中川氏が退席した後、党紀委員で話し合った結果、多数の委員の中川氏に対する印象はおおむね良好で、復党を認めるべきであるという結論に達した。

また、前回の知事選挙、今回の衆議院選挙で府連に大きな傷跡を残したことは事実であるが、党紀委員会には中川氏を処分する権限はないということで無条件で中川氏の復党を認めた。12月3日の幹部会常任総務合同会議では、党紀委員会の結論が了承され、総選挙以来、約3ヶ月間続いた中川氏の復党問題はやっとケリがついた。

第二名神建設促進を 府議団、二ノ湯議員に陳情

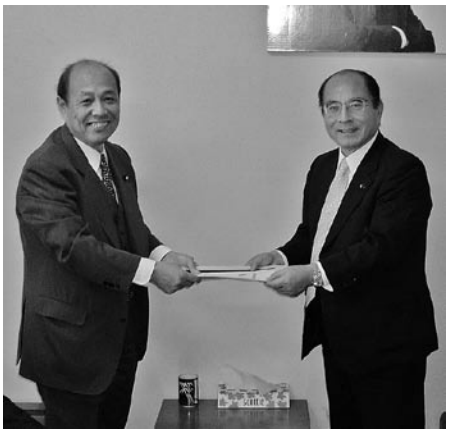
11月30日、京都府会議員団8名が、第二名神高速道路建設促進の要望のために参議院議員会館の二ノ湯事務所を訪問した。

第二名神高速道路は、「大津―城陽」「八幡―高槻」の両区間が抜本的見直し区間とされ、今のところ建設再開のめどは立っていない。建設予定地の各自治体は、第二名神高速道路の開通を前提に町作り計画を策定しているため、仮に建設中止ということになれば、10年、50年先を見据えた町作り計画を大きく変更しなければならなくなる。

10月1日に全ての道路公団は民営会社になった。これにより、不採算路線の建設はさらに厳しく見直されることとなろうが、第二名神高速道路は、名古屋圏と大阪圏を結ぶ日本の背骨・大動脈とでもいうべき極めて重要な路線であり、採算性の面での問題はないとされる。しかし、抜本的見直し区間とは、無駄な公共事業を見直すことの象徴という政治的な意図があるため、小泉首相在任中の建設再開はないだろうとの見方が有力である。

小泉総理の任期は来年9月いっぱいであるため、平成19年度予算に第二名神建設の予算計上が実現することは極めて難しい状況である。となれば、早くても平成20年度からの予算計上を目指すことになるが、それに間に合わせるためには、実務的には、来年1月頃までが勝負とされる。

今回の府議団の要望のみならず、ここ1・2ヶ月の間、第二名神高速道路建設促進の要望が後を絶たない。地元の第二名神高速道路に対する熱い想いがひしひしと伝わってくる。



明田功議員から要望書を受け取る二ノ湯議員

第二名神議連総会 20日開催、熱意を示す

来る12月20日、衆議院第2議員会館会議室において、第二名神高速道路建設促進議員連盟(会長・伊吹文明衆議院議員)総会が開かれる運びとなった。

総会では、「抜本的見直し区間」とされた2区間の重要性を再確認して、関係当局の再検討を促し、来年1月の建設路線を指定する「国土開発幹線自動車道建設会議」で着工へ前進する決定がなされるために、どのように働きかけていくかが主な課題となる。

総会には、議連に所属する国会議員のほか、国土交通省の幹部や、西日本高速道路㈱・中日本高速道路㈱・日本高速道路保有・債務返済機構の社長及び幹部の出席が予定されている。また、沿線の関係府県の知事にも出席を要請している。

議員連盟としては、この総会で関係府県・団体の士気を高め、関係者が一丸となって第二名神高速道路建設に向けて取り組んでいく決意を改めて示す意向である。

危機に陥る地方議員年金　国会議員年金の影響で廃止の危機

特権的だと国民から批判の強い国会議員年金の改革が急がれている。国会議員年金の制度は、全額が税金となる退職金だと国民の理解を得にくいため、現役議員が元議員とその遺族への給付額の全てを負担するように創設された。しかし、受給者の平均寿命が延びたことが主な原因でうまくいかなくなり、現在は支給額の7割を国庫が負担しているのである。

与党と民主党は、来年4月から現行制度を廃止することには既に合意しているが、廃止の仕方については合意に至っていない。改革の話が出た当初は、単純に全廃すべきとの声もあったが、そうした場合、国会議員は毎月の積み立てがなくなり負担が軽くなるが、現在千人近くいる受給者の生活を保障するために、新たな国庫負担(税金)が増える。それでは改革にならない。

現在、与党と民主党との案に隔(へだ)たりはあるが、3年以上在職している現職議員には積立金の一部を返還し、年金受給者には額を減らして給付を続けるべきとの点では一致しており、そのような案でまとまる見通しである。

そうなれば当然、地方議員年金も見直しの方向へ進むだろう。公費負担は国会議員年金よりもかなり少ないが、やはり「特権」と見なされているのである。

地方議員年金の現状は、都道府県議会議員・市議会議員・町村議会議員のそれぞれで異なるが、どれも長寿化が進んで財政的に非常に厳しい。さらに、現在急速に進んでいる市町村合併の影響も大きい。市町村合併が進むと、議員定数が減り引退して年金を受け取る議員は増えるので、入るお金が減り、支出するお金が増える。市と町村の議会議員年金は、このままでは3年後に破綻するという危機に陥っている。

地方議員は、地方議員年金の存続を強く要望している。歳費の支給額で見ると国会議員よりも遙かに少ない地方議員から、年金という老後保障まで奪ってしまっては、地方議員のなり手がなくなってしまうという懸念がある。

市町村合併特例法の16条3項には、合併の推進に伴って市・町議会年金の運営が厳しくなれば、健全な運営のために必要な措置を講ずると明記されている。しかし、国会議員年金改革が進む中、なかなか地方議員年金存続の要望をしづらい面もあり、地方議員年金は苦境に陥っている。

指定都市選出議員交流会
二ノ湯議員、司会を務める

11月25日に開催の「指定都市行財政問題懇談会」に先立って、前日の24日、自民党本部で指定都市選出の国会議員と政令指定都市議員との立食形式での交流会が行われた。10月28日に党紀委員会から「役職停止1年、執行猶予2年」の処分を通告されていた二ノ湯議員だが、この日は党本部から依頼されて司会進行役を務めた。また京都市からは国枝克一郎議員(上京区)が参加した。

会場には武部勤幹事長や組織本部長の谷津義男衆議院議員らが駆け付けて挨拶したほか、政令市を選挙区に持つ政令指定都市議員連絡協議会長の中川秀直政調会長(広島市)と中馬弘毅行革・規制改革担当大臣(大阪市)も参加した。中川政調会長は「これから、堺市、新潟市、浜松市が政令市になれば、日本の大部分が政令市となり、その頑張りがより一層重要になる」、中馬大臣は「特区などの仕組みを使えば、大抵のことは地方が自主的に行える。地方も主体的・積極的に取り組んで欲しい」と述べ、地方主権の実現のためには政令市の頑張りが不可欠との認識を示し、激励した。

先の総選挙で自民党が躍進したのは、大都市での得票が大幅に伸びたためであり、党幹部からは「地方に強かった自民党が都市政党に生まれ変わりつつある」との声も聞かれる。

今後は、三位一体の改革が進み、予算の総額は減少するものの、国から地方へと権限と財源がどんどん移譲され、地方の創意工夫が生かされるようになる。そのような地方の時代において、従来から都道府県と大差ない権限を有してきた政令指定都市が、その行政経験を活かして、他の地方自治体を引っ張っていくことが求められるだろう。

司会をする二ノ湯参議院議員

新春招福バスツアー 第19回 伊勢神宮初詣

◇旅行日　平成18年1月9日(月・祝)

◇昼食場所　賢島『宝生苑』

◇会　費　8,000円

◇参加希望の方は至急お申し込み下さい

◇申込先　後援会役員または
二ノ湯さとし京都事務所まで
TEL(075)315-2228
FAX(075)315-2310

一年間の幸福を祈願し、新たな気持ちで新年を迎える行事として、
揃って参拝いたしましょう。

参議院議員　二ノ湯さとし後援会

世界最大級ドイツのコンテナ船

「京都エクスプレス」と命名

京都エクスプレスを背景に記念撮影

今年で創立158年目を迎えたドイツ最大の船会社ハパックロイドが所有する新しいコンテナ船に「京都エクスプレス」という名前が付けられた。ハパックロイド社が所有する船には、「横浜」「神戸」と既に日本の都市の名前が付けられているが、いずれも港湾都市であり、内陸都市としては京都が初めてである。

日本の伝統的かつ近代的な文化が融合した町、京都とのつながりを持つことができ、ハパックロイド社関係者は大変喜んでいる。そのために去る11月18日に横浜港において命名式が盛大に行われた。命名式には二ノ湯議員夫妻、星川茂一京都市副市長、そしてドイツ連邦共和国大使も参加した。命名式では桝本市長の祝辞を星川副市長が代読した。

この船は、全長335メートル、幅42・90メートル、総トン数103、800トンで、総工費約100億円をかけた、現時点では世界最大のコンテナ船である。8750個のコンテナを積載することが出来るが、乗組員は20人で済むそうだ。韓国の蔚山(ウルサン)市で現代重工業社によって建造され、日本の港への寄港は最初で最後ということである。

日本の港湾は浅くて、コンテナを積載しては10万トン級の船が接岸できない。「京都エクスプレス」は韓国から空荷で横浜まで航行してきたが、横浜港のベイブリッジと船の間隔がわずか2メートルしかなくて、ヒヤヒヤの通過だったそうである。

「京都エクスプレス」は主として上海で荷物を積んで、厦門(アモイ)、塩田(エンデン)、香港、シンガポールを巡航したあと、イギリスのサザンプトン、ドイツのハンブルグ、オランダのロッテルダムの各都市をまわる。いずれにしても「京都エクスプレス」という名前が付いた世界最大級のコンテナ船が世界の海を周航するのは、京都の知名度アップのために大変喜ばしいことである。

第153回
みんなで歩こう湯歩会(参加者68名)

京都御所建礼門にて

身辺雑記

歩くことは健康の基本

一、京都で小泉・ブッシュ日米首脳会議が開かれた。市民に多少不便をかけたようだが、警備上も大して問題がなくて良かった。これで二〇〇八年に日本で開催予定の先進国首脳会議(サミット)の京都誘致に弾みがついたのではないか。

一、幼い子供の殺人事件を聞く度に、日本の社会もここまで落ちぶれてしまったのかという感を深くする。かわいい盛りのいたいけな子供をいとも簡単に殺すとは。犯人をただちに極刑にしたい気持ちになる。

一、姉歯建築事務所による耐震強度偽装問題には驚いた。悪いのは姉歯本人だけなのか。建築主、施工業者、民間の建築確認検査機関は事件に関係ないのか。この事件は根が深くて複雑怪奇である。いくら経費削減とはいえ、こんなことをよく考えたものだ。

一、それにしても可哀想なのはローンを組んで購入した人達である。せっかくの夢の新居が震度5程度の地震で、崩壊の恐れがあるという。善良な庶民をだました悪質業者を許してはいけない。

一、先の総選挙で当選した83人の新人議員。武部幹事長より君達の最も重要な仕事は次の選挙で当選することだと発破(はっぱ)をかけられた。多くの議員は本来の政策勉強よりも選挙運動が大事だと、党本部での勉強にあまり顔を出さないようだ。

一、政治の仕事をしていると時間のたつのが本当に早く感じられる。今年一年いったい何が出来たかと考えると、恥ずかしい限りだ。反省しながら新しい年を迎え、多くの人達の暖かい気持ちで政治活動が支えられていることを自覚して、謙虚に、飾らず、努力、精進を重ねていきたい。

第154回
みんなで歩こう湯歩会

- 日　　時：**12月25日(日)** 小雨決行
- 出発時刻：午前8時30分(時間厳守)
- 集合場所：上新電機前(西大路四条西入)
  (阪急西院駅西100m北側)
- コース：上新電機前→葛野大路通→JR花園駅→妙心寺境内→等持院→わら天神→平野神社→北野天満宮解散

- 今年の「歩こう会」も最後となりました。多くの方々のご参加有難うございました。
  この一年間の健康に感謝して、来年も引続き元気に「歩こう会」に参加出来ることを祈願しましょう。皆様のご参加お待ちしております。
- 代表世話人　北村好司郎　☎075-313-8758
  (当日)090-1140-4964

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会　年会費　1万円

入会申込・お問い合わせ先

二ノ湯さとし事務所
☎075-315-2228